

技術情報

J A全農やまぐち
TAC・営農推進課
 (083-988-0681)
平成25年9月3日 発行
第 182号

ハスモンヨトウに注意報発令

9月3日付けで、ダイズ、野菜類及び花き類のハスモンヨトウに対し、注意報が発令されました。

つきましては、下記及び「発生予察注意報第4号(写)」を参考に、防除に万全が期されますよう、ご指導をお願いします。

記

1 注意報の予報内容

- (1) 発生地域 県下全域
- (2) 発生時期 9月上旬～中旬(若齢幼虫期)
- (3) 発生程度 多

2 防除対策

- (1) 防除適期(若齢幼虫期)
9月上旬から中旬
- (2) 防除の目安
ア ダイズ : 白変か所数が1a当たり5か所以上認められた場合
イ 野菜類・花き類: 若齢幼虫の発生が認められ場合
- (3) 防除薬剤
表のとおり

3 留意事項

- (1) 幼虫が大きくなると被害が増加するだけでなく薬剤が効きにくくなるので、防除の目安を参考に若齢幼虫期に防除し、防除時期を失しないようにする。
- (2) 野菜類では、定植前のセル苗灌注には長い残効性が期待される。また、ハスモンヨトウに適用がない作物でも、灌注薬剤の濃度がハスモンヨトウに適用のある作物と同等の場合は、ハスモンヨトウにも防除効果が期待できる。

表1 野菜類のハスモンヨトウに適用のある主要苗灌注剤 平成25年9月3日現在

商 品 名	成 分	使用 倍 率	適用作物と使用量(注)					使用時期 (収穫前日 数)	使用 回数	成分を含む 薬剤の 総使用回数
			キャ ベツ	ハク サイ	ブロッ コリー	レタス	リーフ レタス			
スタークル顆粒水溶剤(普)(A)	ジノテフラン20%	50				0.5	0.5	定植前日 ～定植時	1回	3回以内
キックオフ顆粒水溶剤(普)(B,A)	クロラントラニプロール4.0% ジノテフラン15.0%	100	0.5		0.5	0.5		定植前日 ～定植時	1回	クロラントラニプロールは4回以内、ジノテ フランは3回以内
ジュリボフロアブル(普)(B,A)	クロラントラニプロール8.7% チアトキサム17.5%	200	0.5	0.5	0.5	0.5		育苗期後 半～定植 当日	1回	クロラントラニプロールは4回以内、 チアトキサムはレタス3回以内、他は4回 以内
セルオーフロアブル(普)(A,B)	イタダクプロリド ² 2.0% フルベンジシアド ¹ 4.0%	100	0.5 ～ 1	0.5 ～ 1	0.5 ～ 1	0.5 ～ 1		定植3日 前 ～定植時	1回	イタダクプロリド ² はブロッコリー4回以内、他 は3回以内。フルベンジシアド ¹ はキャベ ツ、ハクサイ4回以内、他は3回以内
プレバゾンフロアブル5(普)(B)	クロラントラニプロール5%	100	0.5			0.5		育苗期後 半～定植 当日	1回	4回以内

(注) 使用量はセル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60cm、使用土壌約1.5～4.0)当たり(リットル)

表2 野菜類のハスモンヨトウに適用のある主要散布薬剤 平成25年9月3日現在

系統	商品名	成分	使用時期(収穫前日数)及び薬剤の使用回数											
			キャベツ	ダイコン	ハクサイ	ブロッコリー	はなつこりー	レタス	ナス	ホウレンソウ	イチゴ	アスパラガス		
			時期回数	時期回数	時期回数	時期回数	時期回数	時期回数	時期回数	時期回数	時期回数	時期回数		
IGR	アタブロン乳剤(普)(B)	クロルフルアスロン5%	7日 4	14日 3	7日 4				3日 2	前日 3		前日 3		
	カスケード乳剤(普)(B)	フルフェノキサロン10%	14日 2			7日 2			3日 3		3日 3	前日 3	前日 2	
	ファルコンフロアブル(普)(A)	メキシフェニジド20%	7日 2			3日 2	前日 2		3日 2	前日 2		前日 3		
	ノーモルト乳剤(普)(B)	テフルベンスロン5%	7日 2						3日 2	前日 2		前日 2	前日 2	
	マトリックフロアブル(普)(A)	クロマフェニジド5%	7日 4						7日 3	前日 3		前日 3		
	マッチ乳剤(普)(A)	ルフェヌロン5%	7日 3			7日 3						前日 4		
有機リン	エルサン乳剤(劇)(Bs)	PAP50%	14日 2	30日 2	21日 3	30日 2			21日 2		21日 1			
マクロライド	アフアーム乳剤(普)(C)	エマメクチン 安息香酸塩1%	前日 3						3日 3	前日 2	3日 2	前日 2	前日 2	
シマド	フェニックス顆粒水和剤(普)(B)	フルベンジアミド20%	前日 3		前日 3	前日 2			前日 2	前日 3		前日 2	前日 2	
	プレバソンフロアブル5(普)(B)	クロラントラニリプロール5%	前日 3		前日 3				3日 3	前日 2		前日 2	前日 3	
ー	コテツフロアブル(劇)(C)	クロルフェナピル10%	前日 2			7日 2			前日 2	前日 2		前日 2	前日 2	
	トルネードフロアブル(普)(B)	インドキサカルブMP10%	7日 2						7日 2			前日 2		
	プレオフロアブル(普)(B)	ピリダリル10%	7日 2			7日 2			7日 2	前日 4		前日 4	前日 2	

表3 大豆のハスモンヨトウに適用のある主要な散布薬剤 平成25年9月3日現在

(1) 地上散布薬剤						平成25年9月3日現在
商品名	成分	使用倍率 使用量	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	成分を含む薬剤の 総使用回数	
ロムダン粉剤DL(普)(A)	テブフェノジド0.75%	4kg/10a	14日前まで	3回以内	3回以内	
エルサン粉剤3DL(普)(Bs)	PAP3%	4kg/10a	7日前まで	2回以内	2回以内	
マネーヅトレボン粉剤DL(普)(B、B)	エトフェンプロックス0.5% ピリダリル0.75%	4kg/10a	30日前まで	2回以内	2回以内	
トレボン乳剤(普)(B)	エトフェンプロックス20%	1000倍	14日前まで	2回以内	2回以内	
エルサン乳剤(劇)(Bs)	PAP50%	1000倍	7日前まで	2回以内	2回以内	
アタブロン乳剤(普)(B)	クロルフルアスロン5%	2000~4000倍	14日前まで	2回以内	2回以内	
ノーモルト乳剤(普)(B)	テフルベンスロン乳剤5%	2000倍	14日前まで	2回以内	2回以内	
マトリックフロアブル(普)(A)	クロマフェニジド5%	2000~3000倍	前日まで	3回以内	3回以内	
ロムダンフロアブル(普)(A)	テブフェノジド20%	2000倍	14日前まで	3回以内	3回以内	
マッチ乳剤(普)(A)	ルフェヌロン5%	3000倍	7日前まで	2回以内	2回以内	
トルネードフロアブル(普)(B)	インドキサカルブMP10%	2000倍	7日前まで	2回以内	2回以内	
プレオフロアブル(普)(B)	ピリダリル10%	1000~2000倍	7日前まで	2回以内	2回以内	
フェニックス顆粒水和剤(普)(B)	フルベンジアミド20%	2000倍	7日前まで	3回以内	3回以内	
プレバソンフロアブル5(普)(B)	クロラントラニリプロール5%	4000倍	7日前まで	3回以内	3回以内	
(2) 無人ヘリ用散布剤						平成25年9月3日現在
トレボンエアー(普)(B)	エトフェンプロックス10%	8倍、0.8ℓ/10a	14日前まで	2回以内	2回以内	
トレボンスカイMC(普)(B)	エトフェンプロックス20%	8~16倍、0.8ℓ/10a	14日前まで	2回以内	2回以内	
MR. ジョーカーEW(普)(A)	シラフロフェン19%	16倍、0.8ℓ/10a	14日前まで	2回以内	2回以内	
ノーモルト乳剤(普)(B)	テフルベンスロン5%	8~16倍、0.8ℓ/10a	14日前まで	2回以内	2回以内	
マトリックフロアブル(普)(A)	クロマフェニジド5%	8~16倍、0.8ℓ/10a	前日まで	3回以内	3回以内	
ロムダンエアー(普)(A)	テブフェノジド20%	16倍、0.8ℓ/10a	14日前まで	3回以内	3回以内	
アタブロン乳剤(普)(B)	クロルフルアスロン5%	16倍、0.8~1.6ℓ/10a	14日前まで	2回以内	2回以内	
ランナーフロアブル(普)(B)	メキシフェニジド9%	16倍、0.8ℓ/10a	7日前まで	2回以内	2回以内	
ラービソフロアブル(劇)(B)	チオジカルブ32%	6倍、0.8~1.6ℓ/10a	14日前まで	2回以内	2回以内	
ペガサスフロアブル(普)(B)	フルベンジアミド18%	16~32倍、0.8ℓ/10a	7日前まで	3回以内	3回以内	
プレバソンフロアブル5(普)(B)	クロラントラニリプロール5%	16~32倍、0.8ℓ/10a	7日前まで	2回以内	2回以内	
トルネードフロアブル(普)(B)	インドキサカルブMP10%	8~16倍、0.8ℓ/10a	7日前まで	2回以内	2回以内	
トルネードエースDF(普)(B)	インドキサカルブ5%	8~16倍、0.8ℓ/10a	7日前まで	2回以内	2回以内	
プレオフロアブル(普)(B)	ピリダリル10%	8~16倍、0.8ℓ/10a	7日前まで	2回以内	2回以内	

平成25年9月3日
山 口 県

病害虫名 ハスモンヨトウ（ダイズ、野菜類、花き類）

1 発生地域 県内全域

2 発生時期 9月上旬～中旬（若齢幼虫期）

3 発生程度 多

4 注意報発令の根拠

- (1) 県内6か所のフェロモントラップにおける8月の誘殺数合計は、14,023頭（平年11,192頭）で平年に比べやや多かった。特に、山口市大内、柳井市伊陸での発生が多かった（表1）。
- (2) 山口市大内におけるフェロモントラップの誘殺数は、8月中旬及び下旬に急増しており、9月上旬から中旬に若齢幼虫の発生が続くと予想される（図1）。
- (3) 九州北部地方の1か月予報では、今後の気温は平年並または高い確立がともに40%と予想されており、更に発生の増加が予想される。

5 防除方法

- (1) 防除適期（若齢幼虫期）
9月上旬から中旬（図2）
- (2) 防除の目安
ア ダイズでは、白変か所数が1a当たり5か所以上認められた場合
イ 野菜類、花き類では、若齢幼虫の発生が認められた場合
- (3) 防除薬剤
平成25年農作物病害虫・雑草防除指導基準による。

6 防除上注意すべき事項

- (1) 発生量は地域によりばらつきがあることから、ほ場をよく観察し、若齢幼虫の集中した葉を見つけた場合は捕殺するとともに薬剤防除を実施する。
- (2) 施設栽培では、葉の裏や鉄骨パイプ等の高い位置に産卵することが多いので、黄褐色の毛で覆われた卵塊を見つけた場合は捕殺する。
- (3) 中齢から老齢幼虫は薬剤の効果が劣るので、若齢幼虫期（体長1.5cm未満）の防除を徹底する。
- (4) 防除は効果の高い薬剤で行い、薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統薬剤の連用は避ける。
- (5) 防除の際には、農薬使用基準を遵守し、周辺作物へのドリフトに注意する。

表1 県内フェロモントラップにおける誘殺数

調査地点名	誘殺数(頭)		概評
	本年	平年	
柳井市伊陸	2,404	1,407	多
周南市熊毛	3,393	3,222	平年並
山口市大内	6,041	3,812	多
山口市阿東	950	1,125	やや少
下関市清末	1,069	1,299	平年並
萩市明木	166	327	平年並
合計	14,023	11,192	やや多

注1) 8月1日～31日の誘殺数の合計

注2) 下関市清末は過去9年間、柳井市伊陸は過去6年間の平均値を平年値とした。

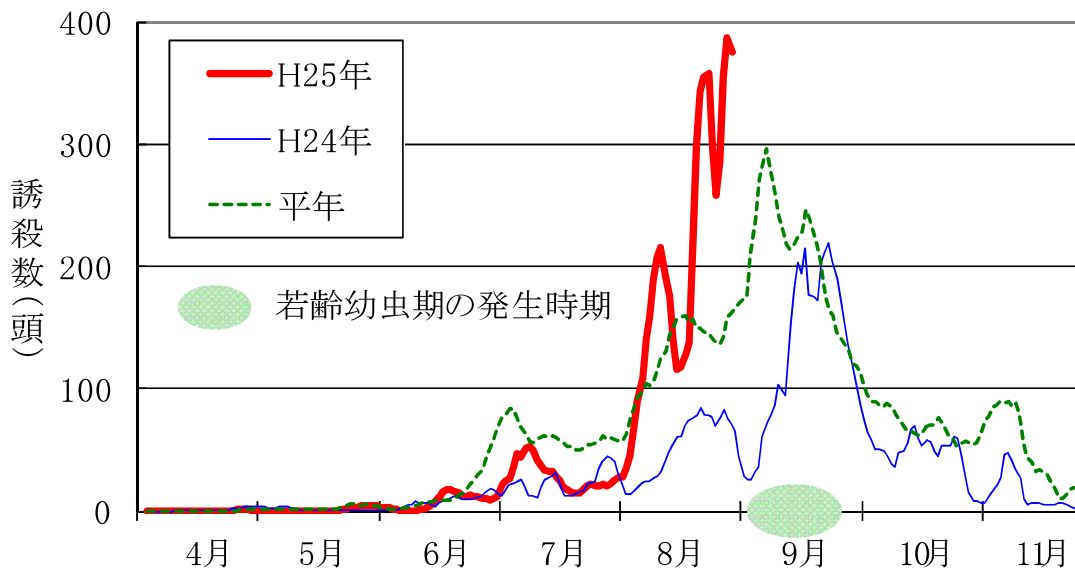


図1 山口市大内におけるハスモンヨトウの誘殺数の推移と今後の予想

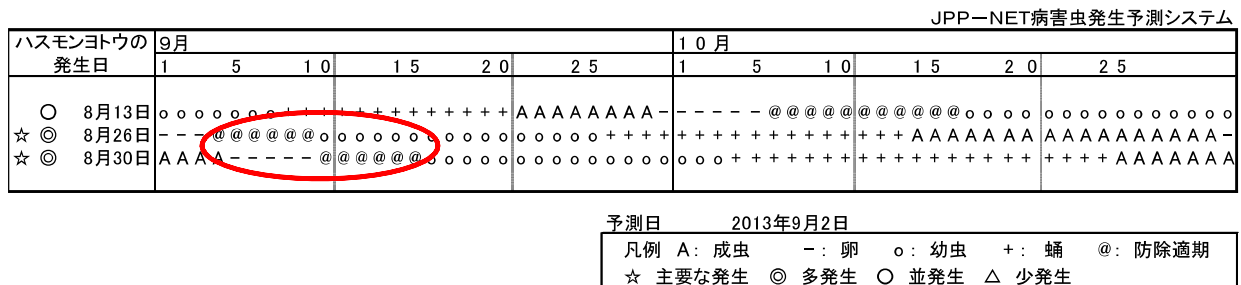


図2 ハスモンヨトウの防除適期予測図



写真1 ハスモンヨトウ 若齢幼虫 (キャベツ) 写真2 ハスモンヨトウ 老齢幼虫(ダイズ) 写真3 ハスモンヨトウ若齢幼虫によるダイズの被害 (白変か所)

【参考：ハスモンヨトウ3齢幼虫の薬剤感受性調査結果(2010年)】

薬剤系統	IRAC コード	商品名	希積 倍率 (倍)	採集場所 (補正死虫率：%)					評価
				山陽 小野 田市	防府市	岩国市	光市	平均	
カーバメト	1A	ランネート45DF	1000	15	35	15	30	23.8	×
有機リン	1B	オルトラン水和剤	1000	25	35	15	15	22.5	×
		エルサン乳剤	1000	10	40	55	5	27.5	×
合成ピレスロイド	3A	トレボン乳剤	1000	23.5	63.2	85	60	57.9	△
		アディオオン乳剤	1000	5	15	0	0	5.0	×
マクロライド	6	アフアーム乳剤	1000	95	65	90	60	77.5	△
IGR	15	ノーモルト乳剤	2000	100	100	100	80	95.0	◎
		カスケード乳剤	2000	65	100	85	25	68.8	△
		カウンター乳剤	2000	100	95	100	100	98.8	◎
	18	ロムダンフロアブル	2000	90	100	85	85	90.0	◎
		ファルコンフロアブル	4000	50	90	80	100	80.0	△
		マトリックフロアブル	2000	90	65	70	90	78.8	△
BT(アザイリイ系)	11	ゼンターリ顆粒水和剤	1000	5.6	10.5	0	10	6.5	×
		フローバックDF	1000	10	10	0	0	5.0	×
その他	22A	トルネードフロアブル	2000	95	100	40	65	75.0	△
ジアドリ	28	プレバソンフロアブル	2000	100	100	100	100	100.0	◎
		フェニックス顆粒水和剤	2000	100	100	85	100	96.3	◎
その他	不明	プレオフロアブル	1000	85	100	95	100	95.0	◎

注1) 人工飼料浸漬法により処理6日後に評価した。

注2) 「IRACコード」とは、殺虫剤の作用機構による分類で、同じ番号の薬剤を過度に連用すると抵抗性の発達を招くおそれがある。

注3) 「評価」欄の記号は、「◎：効果が高い」「△：効果にふれがある」「×：効果が低い」を示す。